

分野	科目名		担当教員	実務経験の有無			
				有	無		
統合分野 【在宅看護論】	在宅看護論概論		首藤八千子	○			
科目単位数	時間	対象学年	開講時期	2019年入学生			
1	15	1	後期				
学習内容	在宅看護の対象である療養者とその家族を理解し、在宅(終の棲家として生活する場)において療養生活を支える看護の概要を学ぶ						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	在宅看護の概念を理解する	○			○	
	2	在宅看護が必要とされる社会背景と地域包括ケアシステムの考え方を理解する	○			○	
	3	在宅看護に必要な法制度とその活用について理解する	○			○	
	4	地域包括ケアシステムにおいて「施設内」と「在宅」を切れ目なくつなぐ看護の役割について理解する	○			○	
	5	多職種と連携しつつ、医療と生活の両面から支援する在宅看護の役割を理解する	○			○	
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考 (講師名)		
	1	在宅看護の概念を理解する	講義		首藤八千子		
	2	在宅看護が必要とされる背景を理解する	講義		首藤八千子		
	3	在宅看護に必要な制度を理解する	講義		首藤八千子		
	4	在宅看護と多職種連携を理解する	講義		首藤八千子		
	5	在宅看護の姿勢と考え方を理解する	講義		首藤八千子		
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
23							
授業時間外に必要な学修	パフォーマンス課題 在宅看護の現場を訪問し、インタビューする。 インタビューした内容を、A3用紙1枚にまとめる						

使用 参考 教科 書	在宅看護論 南江堂 医療福祉総合ガイドブック						
成績 評価 の 方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業へのとり くみ状況	6.その他 (備考)
	到達目標1	○			○		
	到達目標2	○			○		
	到達目標3	○			○		
	到達目標4	○			○		
	到達目標5	○					
(自由記述欄 評価方法)	終講後の筆記試験とパフォーマンス課題を持って評価する						
成績 評価 の 基準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
履修に あたって の留意 点 その他 メッセージ							

分野	科目名		担当教員		実務経験の有無		
					有	無	
統合分野 【在宅看護論】	在宅看護論方法論		首藤八千子		○		
科目単位数	時間	対象学年	開講時期		2019年入学生		
1	15	1	後期				
学習内容	在宅における看護技術の特徴を理解し看護が果たす役割を踏まえて、療養者や家族の生活に合わせてどのように工夫し、また多職種とどのように連携して適応させるのかを学ぶ。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	在宅療養者に対して「予測・予防」「自立支援」を看護の介入の中心においた、在宅で継続できる援助の方法を理解する	○	○	○		
	2	在宅ケアチームとして多職種が連携した援助の在り方を学ぶ	○	○	○		
	3						
	4						
	5						
授業計画	No.	授業内容			授業方法	備考 (講師名)	
	1	在宅人工呼吸療法			講義	首藤八千子	
	2	在宅経腸栄養法(PEG)			GW・プレゼンテーション	首藤八千子	
	3	HOTと呼吸リハビリテーション			GW・プレゼンテーション	首藤八千子	
	4	間欠的自己導尿			GW・プレゼンテーション	首藤八千子	
	5	褥瘡の予防とケア			GW・プレゼンテーション	首藤八千子	
	6	腹膜透析			GW・プレゼンテーション	首藤八千子	
	7	疼痛管理終末期ケア・ストーマケア			GW・プレゼンテーション	首藤八千子	
	8	服薬管理			GW・プレゼンテーション	首藤八千子	
	9	口腔ケアと嚥下訓練			GW・プレゼンテーション	首藤八千子	
	10	在宅輸液療法(HPNポートによる方法)			GW・プレゼンテーション	首藤八千子	
	11	清潔ケア(入浴援助と入浴用品)			GW・プレゼンテーション	首藤八千子	
	12						
	13						
	14						
	15						
	16						
	17						
	18						
	19						
20							

	21						
	22						
	23						
授業時間外に必要な学修	自己学習をしてGWの望む。自己学習内容はポートフォリオに綴じる。 学習内容に関する調べ学習をしてみとめ、プレゼンテーションの準備をする						
使用参考教科書	在宅看護論 南江堂 写真でわかる訪問看護アドバンス 学研 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院 インターネットによる検索可(ただし、著者・発行年・タイトル・URLなどを必ず記入)						
成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業へのとりくみ状況	6.その他(備考)
	到達目標1	○		○	○		
	到達目標2	○		○	○		
	到達目標3						
	到達目標4						
	到達目標5						
(評価方法欄)自由記述	ポートフォリオ内容と終講後の筆記試験						
成績評価の基準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
履修にあたっての留意点 学生へのメッセージ その他							

分野	科目名	担当教員	実務経験の有無				
			有	無			
統合分野 【在宅看護論演習】	在宅看護論演習	首藤八千子 山本幸子 大原千香子 梅木 寿美	○ ○ ○ ○				
科目単位数	時間	対象学年	開講時期	2019 年入学生			
1	30	2	前期				
学習内容	1)生活モデルで看護過程の展開を行うことで、「療養者・家族の思いや望みを達成する」ことを最終目標とする在宅看護のあり方が理解できるようになる。 2)地域包括支援システムの概要を理解し、地域の中で医療と生活の両面から対象のQOLを考えて活動する看護師の対象のとらえ方と看護介入のあり方を理解できるようになる。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	1. 療養者の思いや望みを達成する在宅看護の展開方法を理解できる	○	○	○		
	2	事例の対象の置かれた状況を捉えQOLの向上を目指した看護介入の必要性を根拠を明確にしてとらえる。看護計画を立案し、訪問場面の援助計画を構成することができる	○	○	○	○	○
	3	入退院支援と看護職の連携	○	○	○	○	
	4	地域包括支援センターの活動の実際とマネジメント機能					
	5						
授業計画	No.	授業内容		授業方法	備考 (講師名)		
	1	在宅看護の展開の特徴		講義	首藤八千子		
	2	在宅看護過程の展開： ICF理論を使って対象の置かれた状況の理解 対象の望みや願いを尊重した看護の介入の在り方		講義	首藤八千子		
	3	在宅療養と家族支援		講義	首藤八千子		
	4	在宅看護の役割とチームケアにおける看護の役割を実行する看護介入		講義	首藤八千子		
	5	事例：ALSIにて人工呼吸器をつけた療養者		演習	首藤八千子		
	6	事例：COPDでHOTをしながら在宅療養をしている療養者		演習	首藤八千子		
	7	事例：頸髄損傷にて車いす生活の療養者		演習	首藤八千子		
	8	事例：生活不活発病		演習	首藤八千子		
	9	事例：慢性腎不全にて腹膜透析をしている療養者		演習	首藤八千子		
	10	事例：大腸がんによりストーマ管理を必要とする療養者		演習	首藤八千子		
	11	事例：TIA・高血圧・DM等合わせ持つ療養者		演習	首藤八千子		
	12	事例：パーキンソン病による在宅療養		演習	首藤八千子		
	13	事例：肺がん末期の在宅療養者		演習	首藤八千子		
	14	事例：慢性心不全の在宅療養者		演習	首藤八千子		
	15	事例のアセスメント 全体関連図による全体像の理解 看護計画の理解(計画の根拠を明確にする) 訪問場面の具体的行動計画立案 実施：シュミレーション(療養者および家族役は教員)		演習	首藤八千子		
	16	入退院支援と多職種連携		講義	梅木寿美		
	17	地域包括支援センターの機能		講義	大原千香子		
18	地域包括ケアシステムとマネジメント機能		講義	山本幸子			

	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
授業時間外に必要な学修	授業時間で不足があれば主体的に時間外の時間を使ってグループワークをする (事例の看護の展開と援助計画の立案・援助計画・訪問場面のシュミレーション計画)						
使用参考教科書	在宅看護論 南江堂 写真でわかる訪問看護アドバンス 学研 その他、専門基礎科目で使用したテキスト全般						
成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業への取り組み状況	6.その他(備考)
	到達目標1	○		○	○	○	
	到達目標2	○		○	○	○	
	到達目標3	○		○	○	○	
	到達目標4	○					
	到達目標5						
(自由記述欄)	終講後の筆記試験:在宅看護過程における基礎的知識を問う 事例のシュミレーション場面の他者評価・自己評価の観点をルーブリック評価する						
成績評価の基準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
履修にあたっての留意点 学生へのメッセージ その他							

分野	科目名		担当教員		実務経験の有無		
					有	無	
統合分野 【看護の統合と実践】	看護管理		後藤 鈴子		○		
科目単位数	時間	対象学年	開講時期		2019年入学生		
1	15	2	後期				
学習内容	医療福祉の現場で活躍する看護師はチームの一員として中核的立場にあり、人・物・金・情報・時間管理のマネジメント能力や看護の質を科学的評価し維持するためのリーダーシップ能力をもとられる。看護管理の基礎的知識を基に看護活動の場で看護の動向のあり方を将来にわたって発展的に追及する姿勢を学ぶ。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	看護マネジメントの定義を理解し、説明できる	○	○		○	○
	2	安全管理体制、医療事故・インシデントレポートの分析と活用と理解し、説明できる	○	○	○	○	○
	3	多重課題の特徴と対応を理解する	○	○	○	○	○
	4	継続教育、キャリア開発	○			○	○
	5	看護を取り巻く諸制度(診療報酬・介護報酬)を理解する	○				
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考 (講師名)		
	1	私たちは何のために働くのか	講義		後藤 鈴子		
	2	病院の種類と役割	講義		後藤 鈴子		
	3	実習の不安をなくそう	講義		後藤 鈴子		
	4	第1章 看護におけるマネジメントの考え方(グループワーク)	講義		後藤 鈴子		
	5	統合実習とは、マネジメントプロセスとは、PDCAサイクル	講義		後藤 鈴子		
	6	統合実習とは、マネジメントプロセスとは、PDCAサイクル	講義		後藤 鈴子		
	7	看護を取り巻く諸制度(診療報酬・介護報酬)について	講義		後藤 鈴子		
	8	看護を取り巻く諸制度(診療報酬・介護報酬)について	講義		後藤 鈴子		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
23							

授業時間外に必要な学修									
使用参考教科書	系統看護学 統合分野 看護管理 資料プリント 関係法規の教本 国民衛生の動向の本								
成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業へのとり組み状況	6.その他(備考)		
	到達目標1	○							
	到達目標2	○							
	到達目標3	○							
	到達目標4	○							
	到達目標5	○							
(自由記述欄)									
成績評価の基準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。								
履修にあたっての留意点 学生へのメッセージ その他									

分野	科目名		担当教員		実務経験の有無		
					有	無	
統合分野 【看護の統合と実践】	医療安全 (医療安全 総論) (医療安全の現状)		安部三枝子 安藤万寿美		○ ○		
科目単位数	時間	対象学年	開講時期		2019年入学生		
1	15	1	後期				
学習内容	医療事故は日常の看護で発生しやすいことを認識し、質の高い医療を提供するために必要な医療事故防止の基本的知識を学ぶ。安全レポートの視点を持つことができ、振り返りの必要性を理解する。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	日常の看護で医療事故が発生する状況を理解する	○				
	2	医療事故が発生する要因を理解する	○				
	3	安全について振り返る必要性を理解する		○			
	4	医療事故の要因を元に具体的対策を導く思考を理解する		○			
	5	医療暗線の現状を元に看護師に求められる医療安全対策を理解する	○				
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考 (講師名)		
	1	人はなぜエラーを起こすのかインシデントとアクシデント安全レポートの考え方・書き方を理解する	講義		安部三枝子		
	2	実習で安全を脅かすことを共有し振り返る	講義		安部三枝子		
	3	医療事故・看護事故 診療の補助・日常生活の援助の際の看護事故(介入時と非介入時の考え方) 事例を用いてPCAの思考から要因を考える①	講義		安部三枝子		
	4	PCA なぜなぜ分析の考え方② 事例をもとになぜなぜ分析を行う	講義・GW		安部三枝子		
	5	PCA根本原因分析法③:事例のGWを元に考える。論理的思考と看護に必要な思考について資料を基にKYTの必要性を考える	講義		安部三枝子		
	6	医療安全管理体制の取り組み 患者誤認・コミュニケーション・インシデントレポート	講義		安藤万寿美		
	7	医療事故防止対策 1)薬剤 2)輸液ポンプ 3)輸血	講義		安藤万寿美		
	8	医療事故防止 重大事故対応 療養場面から考える	講義		安藤万寿美		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							

	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
授業時間外に必要な学修	事故を元に自己学習しグループワークに臨む						
使用参考教科書	系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践[2] 医学書院 PCA根本原因分析法 実践マニュアル 医学書院 医療安全 患者の安全を守る 看護の基礎力・臨床応用 Gakken						
成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業への取り組み状況	6.その他(備考)
	到達目標1	○					
	到達目標2	○					
	到達目標3	○					
	到達目標4	○					
	到達目標5	○					
(自由記述欄) 評価方法	終講試験にて100点評価 総論:60点 医療安全の現状:40点						
成績評価の基準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
学生へのメッセージその他	履修にあたっての留意						

分野	科目名		担当教員		実務経験の有無		
					有	無	
統合分野 【看護の統合と実践】	災害看護		造士真理子 別府市消防本部 市村誉 末廣美和		○ ○ ○ ○		
科目単位数	時間	対象学年	開講時期		2019年入学生		
1	30	1	前期				
学習内容	災害直後から支援できる看護の基礎知識について学び看護活動の場やあり方を理解する。救急法を身につけDMAT(災害派遣医療チーム)の訓練への参加を通して、災害時における看護師の役割を理解する。また、国際社会の現状を理解し海外における看護活動の必要性と災害発生時の看護援助の在り方を理解する						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	災害医療の基礎知識を学ぶ	○				
	2	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護の在り方と被害者特性に応じた看護の展開を学ぶ	○				
	3	DMAT・トリアージの実際を学ぶ	○				
	4	救急処置について学ぶ	○			○	
	5	国際看護学の概念と文化を考慮した看護を学ぶ	○		○	○	
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考(講師名)		
	1	災害看護の歩み	講義		猪口典子		
	2	災害医療の基礎知識(災害の定義・災害の種類と健康障害)	講義		猪口典子		
	3	災害看護の役割・被災病院における初動体制と重傷病者受け入れ	講義		猪口典子		
	4	避難所の看護活動	講義		猪口典子		
	5	トリアージの実際と二次トリアージについて学ぶ	講義		猪口典子		
	6	慢性期・復興期の看護	講義		猪口典子		
	7	静穏期の看護 被災者特性に王板災害看護の展開	講義		猪口典子		
	8	救急法	演習		別府市消防本部		
	9	救急法	演習		別府市消防本部		
	10	災害総論(医師の立場から)	講義		市村誉		
	11	トリアージの実際 (START包 PAT法)	演習		市村誉		
	12	国際看護 世界の現状	講義		末廣美和		
	13	国際看護 異文化の理解	講義		末廣美和		
	14	国際看護 GW	演習		末廣美和		
	15	国際看護 GW	演習		末廣美和		
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
23							
授業時							

<p>間外に必要 な学修</p>									
<p>使用 参考教科書</p>	<p>系統看護学講座 統合 災害看護・国際看護 看護の統合と実践③ 医学書院</p>								
<p>成績 評価の 方法</p>	<p>到達目標ごとの評価方法</p>	<p>1.終講試験</p>	<p>2.小テスト</p>	<p>3.発表</p>	<p>4.課題・レポート</p>	<p>5.授業へのとり くみ状況</p>	<p>6.その他 (備考)</p>		
	<p>到達目標1</p>	<p>○</p>							
	<p>到達目標2</p>	<p>○</p>							
	<p>到達目標3</p>	<p>○</p>							
	<p>到達目標4</p>	<p>○</p>							
	<p>到達目標5</p>	<p>○</p>							
<p>(自由記述欄 評価方法)</p>									
<p>成績 評価の 基 準</p>	<p>・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。</p>								
<p>履修にあたっての留意点 学生へのメッセージ その他</p>									

分野	科目名	担当教員	実務経験の有無				
			有	無			
統合分野 【看護の統合と実践】	緩和ケア	水野佳代	○				
科目単位数	時間	対象学年	開講時期	2019年入学生			
1	15	1	後期				
学習内容	人間はあらゆる健康水準の中や成長発達過程の中で身体的苦痛のみでなく精神的苦痛・社会的苦痛に出会う。身体的苦痛の緩和の理論的解決に向けての知識を基に、精神的苦痛や社会的苦痛の緩和の方法を学ぶ。また、看護師の役割の中に対象者を取り巻く人々に対する協力を促すケアの必要性を見出すことができる						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	緩和ケアの歴史と理念、我が国における位置づけ、さらに看護の中で緩和ケアの専門性はどのように発展しているか理解する	○				
	2	緩和ケアにおけるチーム医療の在り方を学び、看護師としての役割とチームにおけるリーダーシップについて理解する	○				
	3	緩和ケアにおける倫理的課題と意思決定支援について理解する	○				
	4	緩和ケアにおける看護介入と身体症状のマネジメントとケアについて理解する	○				
	5	精神的ケア・社会的ケア・スピリチュアルケアについて理解する	○				
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考 (講師名)		
	1	緩和ケアの歴史と現状・緩和ケアにおける看護師教育	講義		水野佳代		
	2	チーム医療・緩和ケアにおける倫理的課題	講義		水野佳代		
	3	緩和ケアにおけるコミュニケーションと意思決定支援	講義		水野佳代		
	4	緩和ケアの対象者と緩和ケアにおける看護介入	講義		水野佳代		
	5	身体的ケア	講義		水野佳代		
	6	身体的ケア	講義		水野佳代		
	7	社会的ケア・家族ケア	講義		水野佳代		
	8	心理的ケア・スピリチュアルケア	講義		水野佳代		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
23							
授業時間外に必要な学							

使用教科書 参考書	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院						
成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業へのとりくみ状況	6.その他(備考)
	到達目標1	<input type="radio"/>					
	到達目標2	<input type="radio"/>					
	到達目標3	<input type="radio"/>					
	到達目標4	<input type="radio"/>					
	到達目標5	<input type="radio"/>					
(自由記述欄) 評価方法							
成績評価の基準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
学生へのメッセージ その他	履修にあたっての留意点						

分野		科目名		担当教員		実務経験の有無	
						有	無
統合分野 【臨地実習】		在宅看護論実習		首藤八千子		○	
科目単位数	時間	対象学年		開講時期		2019年入学生	
2	90	2		前期			
学習内容	<p>生活の場である在宅において療養する人々とその家族の健康上の諸問題や生活課題を理解し、援助の主体は療養者と家族であることを念頭に対象に合った在宅における看護活動を学ぶ。在宅療養支援として保健・医療・福祉における社会資源の内容や活用の実際とそこにおける多職種連携と看護の役割を学ぶ。また地域包括支援センターの役割と予防や自立に向けたマネジメントの在り方を学ぶ。</p> <p>【在宅看護論実習目的】 在宅で生活する療養者とその家族を統合的に理解し、それらの人々が望んでいる生活や生き方ができるような看護を実践できる基礎的な能力を身につける。</p>						
到達目標	No.	到達目標					
	1	療養者の健康状態や生活状況について多様な情報源を利用して系統的にとらえ、生活者としての対象を総合的に理解する。					
	2	「療養者・家族の思いや望み」を中心において健康状態や生活状況を予防と自立の視点からアセスメントし、療養者・家族の望みに向かうための課題や問題を明らかにする。					
	3	訪問看護の利用の目的を踏まえ、根拠を明確にしながらい療養者の生活の場に合わせて様々に工夫した援助の在り方を理解するとともに指導者と共に実施する。					
	4	療養者・家族を中心とした在宅ケアチームの一員として多職種と連携することの必要性やその効果を考察し、訪問看護の役割を理解する。					
	5	地域包括支援センターの介護予防支援や包括的支援事業の実際から、ケアマネジメントの機能を知り、在宅看護に求められている看護の役割を理解する。					
	6	在宅療養者の生活や在宅看護の実際に関わることで、生活者としての対象に関心を持ち、「その人らしく生きる」ことを支援する看護の意義を理解する。					
実習計画	講義内容・授業計画(配当時間を含む)						
	【実習施設】						
	大分市東部訪問看護ステーション 訪問看護ステーションおおいた 訪問看護ステーションくろき						
	訪問看護ステーションサンライズ・ビュー 訪問看護ステーション上人 創生の里訪問看護ステーション						
	湯のまち訪問看護ステーション						
	別府市地域包括支援センター(五十音順)						
	青山・東山地域包括支援センター 朝日地域包括支援センター 中部地域包括支援センター						
	鶴見台地域包括支援センター 浜脇地域包括支援センター 北部地域包括支援センター						
	山の手地域包括支援センター						
	【実習期間・実習時間】						
	実習期間:令和元年5月27日～10月25日 実習時間:8:30～17:00						
	訪問看護ステーション実習9日間 地域包括支援センター実習2日間 学内実習1日 学びの共有11月						
	【実習方法】						
訪問看護ステーション実習:受け持ち療養者1名の看護過程の展開(一部援助の実践) 訪問看護師に同行(2～4件/日)して見学・指導者の行う援助に参加し学ぶ							
地域包括支援センター実習:指導者と同行し見学(サービス担当者会議や地域ケア会議,健康教室などに参加)							

<p>評価 方法</p>	<p>・「在宅看護論実習ルーブリック評価表」を用いて評価する ・評価者(実習指導者,教員)</p>
<p>使用 参考 教科 書</p>	<p>在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして 南江堂 関連図で理解する在宅看護過程 メヂカルフレンド社 写真でわかる訪問看護 インターメディカル 医療福祉総合ガイドブック 他の看護学実習で使用するテキスト・参考文献を使用</p>
<p>学生へのメッセージその他 履修にあたっての留意点</p>	<p>2025年、世界に例を見ない超高齢化社会を迎えることになる日本は、地域包括ケアシステムが推進されています。医療は「病院完結型」から「地域完結型」をめざし、多職種連携の必要性を迫られています。看護師の就業の場が病院であれ、地域であれ人々が地域で健康問題を持ちつつ暮らすことを支援することが求められています。看護基礎教育の中で在宅看護論を学ぶことの意味を捉え、主体的な学びへとなることを期待します。</p>

分野		科目名		担当教員		実務経験の有無	
						有	無
統合分野 【臨地実習】		看護統合実習		全教員		○	
科目単位数	時間	対象学年		開講時期		2019年入学生	
2	90	2		後期			
学習内容	基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱの学習内容を統合し、実務に即した実習をすることで看護実践力向上のための土台とする。 【実習目的】 看護管理の実践を基に組織の一員として責任ある行動を考え、看護師に求められる役割を理解し看護を実践する能力を養う						
到達目標	No.	到達目標					
	1	病院・病棟における看護管理・医療安全の実際から学生としての責任ある行動について理解できる。					
	2	看護チームリーダーの役割・夜間の看護の実際からリーダーシップ・メンバーシップを理解し組織の一員としての行動を理解する。					
	3	複数患者の状態を把握し、患者のニーズを充足するよう優先順位を考え援助を実施できる。					
	4	その場の状況に応じてスケジュールや援助内容を対象者やスタッフと調整し援助を実施できる。					
	5	専門職業人として責任感・倫理観を持ち、自己の役割を果たせるよう主体的に行動できる。					
	6	臨地実習を通して看護観を見出すことができる。					
授業計画	講義内容・授業計画(配当時間を含む)						
	【実習施設】						
	大分医療センター 大分中村病院 大分県厚生連鶴見病院						
	別府発達医療センター 別府リハビリテーションセンター						
	【実習期間・実習時間】						
	実習期間: 11月25日～12月10日(12日間) 内1日間夜間実習 11:00～20:00						
	実習時間: 8:30～17:00						
	【実習方法】						
	看護管理実習: 病院・看護部の組織を知るためにトップマネジャーの説明を受ける 病棟管理者(看護師長)と同行し、病棟管理者の役割を学ぶ						
	夜間実習: 夜間(就寝前まで)の時間の実習。夜間の看護師に同行して学ぶ						
リーダーシップ・メンバーシップ : その日のリーダーに同行してリーダーの役割を学ぶ : メンバーシップはチームの一員として受け持ち患者の看護の展開を行うことで学ぶ							
多重課題実習: 複数患者(2名)を受け持ち看護を展開する。実習1週目は1人目、2週目は2人目の患者を受け持つ							
評価方法	・「看護統合実習ルーブリック評価表」を用いて評価する ・評価者(実習指導者、教員)						

<p>使用 参考 教科 書</p>	<p>看護の統合と実践①看護管理 ナーシング・グラフィカ 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3]医療安全 その他、専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱの授業で指定しているテキストを使う</p>
<p>学生へのメッセージその他 <small>履修にあたっての留意点</small></p>	<p>卒業時点である一定の看護実践能力を備えていることが求められている。求められる看護実践力は1)ヒューマンケアの基本に関する実践能力 2)看護の計画的展開能力 3)特定の健康問題を持つ人への実践能力 4)ケア環境とチーム体制整備能力 5)実践の中で研鑽する基本能力と言われています。この項目を更に具体的に看護統合実習期間に求めるものとして看護統合実習目的・目標を定めています。できるだけ臨地に近い実習を組み立てたいが限界もあります。臨床で働く自分をイメージしながら、組織の一員・チームの一員として対象のニーズにこたえられる看護の追及ができるようになってほしいと思います。</p>